平成 21 年 11 月 14 日
東京フォーラム
於：湯島聖堂

中斎塾　東京フォーラム
平成 21 年　第 10 回講話

正直、親切

恒例の質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい。

（・・・沢山手が挙がる）

皆さん、これはもう問題ありませんね。今、テレビ等で行政刷新会議の様子が流れますが、非常に目新しいことで、良いと思います。話を聞いていて、この人は嘘をついているのではないかな？　とか、心にもないことを言っているのではないかな？　と思いながら見ています。行政刷新会議の行方は非常に注目に値すると思っています。

昨日一日、自分にとって良い日だったなと思えた方は手を挙げて下さい。

（・・・沢山手が挙がる）

良いこと、悪いことを相対評価していますと、だいたい悪いことの方が多いです。ですから天秤にかけて考えないで、良いことが少しでもあったなら、良い日だったと思って眠ると良いでしょう。

昨日、どこかで有難うと言い、どなたかから有難うと言われた方は手を挙げて下さい。

（・・・沢山手が挙がる）

ある程度の地位や年齢になると、有難うという言葉は結構出ますが、人さまから有難うと言われることが少なくなるようです。ですから、人さまから有難うと言われるように、年配になればなるほど氣をつけていないといけません。

今日の論語

中斎塾フォーラムの本部幹事の舘野先生が亡くなられ、一昨日がお通夜、昨日が告別式でした。東京フォーラムからも多くの幹事さん・会員さんに参列を戴きまして、有難うございました。

論語の八佾の中に、喪に関して次のような章があります。

○子曰く、上に居て寛ならず、礼を為して敬せず、喪に臨んで哀しまずんば、吾 何を以て之を観んや。

お義理だけ、体裁だけで葬儀に参列するのは、あまり嬉しくないということです。

ここ 2、3 年で私が参列した葬儀で心に残ったのは、亡くなられた方が大往生で、参列者が家族とごく一部の親戚だけというものがありました。ある業界の新聞社の会長の親御さんのお葬式でしたが、会社関係の方はおりませんでした。故人を本当に悼み心から悲しみつつ、大往生でよかったという情愛が、そこはかとなく伝わってくるようなお葬式でした。

ここぞとばかりに一所懸命段取りをして、大勢の方に参列してもらって盛大にする葬儀も当然あります。それはそれで私も参列させて戴きましたが、心を打つということはあまりなかったように感じます。

○林放 礼の本を問う。子曰く、大なるかな問うこと。
礼は其の奢らんよりは寧ろ倹なれ。喪は其の易まらんよりは寧ろ戚めと。

葬儀は、世間で決められたルールがだんだんと杓子定規になってきて、心がこもらない。一つ一つの礼儀作法に基づいて坦々とやっていけば大きな失態はないが、心が伝わってこない。だから色々な作法ばかりを氣にして坦々と葬儀を行なうよりは、心から故人を偲び、哀悼の意を示すような葬儀にするのが望ましいと、孔子は言っています。

舘野先生の葬儀は、こういう葬儀に近かったなと感じています。

では本日の論の解説を致します。八佾第三　22、23 です。

○子曰く、管 仲 の 器 、 小 なるかなと。
或ひと曰く、管 仲 は倹なるかと。
曰く、管氏に三帰有り。官の事 摂せず。 焉 んぞ倹なることを得んと。
然らば 則 ち管 仲 は礼を知れるかと。
曰く、邦君 樹して門を塞ぐ。管氏も亦樹して門を塞ぐ。邦君　両 君の好を為すに、反坫有り。管氏も亦反坫有り。管氏にして礼を知らば、孰か礼を知らざらんと。

孔子が「管仲は小さな人物だな」と言いました。

或る人が「管仲は倹約家でしたか」と聞きました。

孔子が答えました。

「管氏は、遊観をする台を持っていた。それに家臣が兼任もしないで、一つの仕事を一つだけ抱えている。こういうのは、倹約家とはいわない。」

さらに或る人が問いました「管仲は礼儀作法についてはどうですか」

孔子が答えました。

「各諸侯は庭の中に小さな塀を建てて、中が見えないようにするが、管氏は諸侯の身分でないのに、同じようにしている。これは分不相応であるし、増長しているように見える。各地の諸侯が誼を結ぶ会をする際に、反坫という杯を置く台を設けるが、管氏も同じ台がある。これだけ礼儀知らずの管氏が礼を知っているというならば、一体誰が礼儀を知らないと言えるのであろうか」

孔子はどうも、礼儀知らずとか不孝な人間に対しては、かなりきつい言い方をしています。ここでは、管仲という人物について、礼儀を知らないと孔子は言っていますが、他では褒めています。憲問篇では、世が乱れている時に主人である管公を助けて覇者たらしめ、世の中に平和をもたらしたということで、その功績を評価して褒めています。孔子は、一点だけを見て人物を評価するのではなく、良い面も悪い面も公平に見て評価していることが分かります。

○子 魯の大師に楽を語げて曰く、楽は其れ知るべきなり。始め作すときは翕如たり。之を従つときは純如たり、皦如たり。繹如たり、以て成ると。

音楽について私は、仕組みはだいたい分かる。仕組みを知る事は、誰でも出来ない事ではない。最初は翕如、12 個一組の鐘が盛大に鳴り響く。次いで純如、それぞれの楽器が静かに合奏をされる。そして皦如、各々の楽器が独立して独奏し、なおかつそれが調和をしている。最後には繹如、連続して余韻が残っていく。結果、完成をする。

孔子は音楽が大好きだったようで、孔子の音楽に対する思い入れは、他にも論語の中にいくつか出ています。

心に残る言葉

今日ご紹介する本は、木内信胤先生の『当来の経済学』です。

目下の日本が「国家目標喪失」といひたいやうな状態に陥ったのは、明治以来の西欧化コース、終戦以来のアメリカ一辺倒のコースを、完走してしまったから・・・（以下略）

この文章の後には、アメリカはこれから凄まじい勢いで転げ落ちる。そして日本は、日本独自のものの考え方・国家戦略を進めていくことによって、日本が豊かに、尚且つ、周りの国々の目標になるような国になっていくという内容が書かれています。

木内信胤先生が亡くなられた後は、木内先生を囲む会というものが若干続いておりました。その中で、木内信胤先生の考えを継いで発刊されている『カレント』という雑誌があります。持参しましたので、これも皆様に回覧致します。

先日、『カレント』を発行している矢野さんから原稿依頼の電話を戴いて、来年 1 月から、山田方谷について書かせて戴くことになりました。これは衆参両院の議員さん達全員に送られている雑誌ですので、それなりのことを書かなければいけないと思っています。

テーマ　― 知識・見識・胆識 ―

中斎塾フォーラムで学んでいると、知らず知らずの間に知識・見識・胆識という言葉が自然と出るようになって、知識も、今、自分の持っている知識は表面上の知識なのか、それとも行動し、体験し、実感した裏付けのある知識なのか、ということを考えるようになると思っています。ですから今、自分の持っている知識はどこまで自信のある知識なのかを考えてみたら良いでしょう。

知識がだんだん本物の知識に変わっていって、危機が生じた時には、おのずから見識が心の中から湧き起ってきます。それが現実の世界になった時には、胆識になります。胆識とは、見識を持った行動です。

行動し、体験することで本物の知識になるというのは、陽明学の中では「知行合一」と言います。「知るは行うの始めにして、行なうは知るの成れるがなり」です。知行合一のもとに我々が学んでいる知足という言葉が、言葉だけの理解ではなくて何らかの実体験が出てくると、「足るを知る」を実感できます。日々の暮らしの中で、これが知足かなと感じられたら素晴らしい。夜寝る時に、今日は良かったなと思って眠れたなら、今日一日知足の人生を送ったと考えてよいし、それの繰り返しであれば善循環が進んでいると思ってよいでしょう。

秋季合同フォーラムの大前先生の話の中でも、「夜寝る時に氣持ちよく眠れれば、病氣はしない」と言っておられました。先生は体重測定をずっとしておられて、体重が軽かった時は、人生の中で嬉しくて楽しくて何ともいえない充実した日々だったそうです。ですから、嬉しい楽しい時は身も心も軽くなるというのは現実のことで、実際にデータもとれていると言っておられました。寝る時に嫌な思いをして、翌日それを引っ張っていると身

体が重いし、今日は良い日だったと思って寝ると、現実に翌日の朝は身体が軽くなっているそうです。

大前先生と別に打合せをしたわけではないけれども、フォーラムで毎回お聞きしている夜寝る時が大事だということが医学的にも証明されたので、非常に良かったなと思っています。

ちなみに私は夜寝る時に、次の 5 つ項目を考えて、満足して寝ます。

・ 今日は嘘をつかなかったかな
・ 今日は良い日だったかな
・ 有難うと言い、有難うと言われたかな
・ 今日は運動をしたかな
・ 明日は良い日だったかな・・・過去形で考えるのがポイントです。明日やりたい事、やろうと思う事をさっと頭に浮かべて、それが全部できて、良かったなと満足して眠ります。

氣になっていること ― 税金 ―

最近、氣になっているのは税金です。国が税金を取りすぎているのではないかといつも思っています。

先ほど申しました『カレント』に山田方谷について書かせて戴きますが、山田方谷は『理財論』で、国が滅びる時は本当に些細なもの、考えられないようなところにまで税金をかけてくる。本来の収入だけに税金をかけるだけではなく、立ち木 1 本とか、ありとあらゆるものに重箱の隅を突いて取るような税金のかけ方をする国は、皆、滅びると断言しています。当時の備中松山藩も同じだと指摘しています。

今回の行政刷新会議は、なかなか氣持ちよいメスの入れ方をしていますが、多分まだまだ少ないのだろうと思います。何度も言っていますが、選挙に当選してわずか 2 日間で 1 か月分の給料を貰って平然としている人達が、何故大きな顔をして会議を開くのだろうかと感じます。常識とあまりにも乖離している人達が会議をしているのですから、まずそこの出だしを改めてもらわなければ信用できません。

論語の中に、中心人物がいないと組織は崩壊するという文言があります。行政刷新会議の中心人物は誰でしょうか。仙谷さんなのか、管さんなのか、財務省主導なのか見えません。管さんであれば、鳩山さんが潰れた時に首相の座が回ってくるので、なかなか目立った言動は出来ない状況だろうと思いますし、財務大臣はちょっと及び腰で後ろに立つし、

仙谷さんもまだ切り込めない。少し仙谷さんが出てきたように感じますが、三すくみ、四すくみの状況だと思います。

行政刷新会にしても、暴論かもしれませんが非常に大雑把に考えれば、国の税収が 40 兆にいかないのであれば､それでいいじゃないか｡38 兆なら 38 兆の金額でやれるように、どういう日常生活をすればよいのだということを国民に示せば良いと思います。「この収入でやるためには、国民の皆さんはこういう生活をしましょう」と、何で政治家が言わないのかと思います。46 兆円の税収を見込んでいたのに、40 兆を割りそうなので国債を増発すると言っていますが、借金を増やしてどうするつもりでしょうか。入るお金でやり繰りするにはこうしようとか、我慢しましょうかと言い出すべきであるのに、95 兆円を使いますと言うのですから、どう考えても国を動かしている人達が狂っているとしか考えようがない。「入るを図りて出るを制する」と言いますが、入るを図るのは良いですが、出るを制するのがほんのわずかしか出来ていません。95 兆円の予算など組んでいないで、40 兆にバサッと削ってしまえばよいのです。もちろん色々な問題が出てくるでしょう。行政刷新会議の中で議論の応酬を聞いていると、一つ一つの枝葉末節でやっているという感じがします。根幹に切り込めればよいと思います。

それと役人が口を出し過ぎます。今朝の新聞をみると、介護職員の処遇改善交付金を申請しない事業所がかなりあって、アンケートをとったところ 41%の事業所が、「手続きが煩雑で今後も申請しない」と答えたそうです。助成金や補助金を申請するのに事務手続きが煩雑だったり、提出する書類が多すぎて、その為の人件費の方が高くつくような話はよくあります。又、介護職員の対象が限られているので、同じ職場で働いているのに不公平になっているのも問題です。国が現場の事に細かく口を入れすぎて、手足を縛りすぎているから、現場では混乱するのです。

宇宙飛行士の毛利さんが館長をしておられる日本科学未来館の例を申しますと、一所懸命来館者を増やす努力をしているけれども、毛利さんには人事権もなければ運営管理件もないのだそうです。ただ飾られているだけの館長さんでは、何もできないだろうなあと氣の毒に感じました。

ですからこの機会に、どんどん日本の国の中にメスを入れて戴くと、色々なものがあからさまになると思います。どうみても天下りの組織を作って、そこに官僚が天下って、その人達が食べるために運営している。そういうふうにマスコミが誘導している部分もかなりあるとは思いますが、やはりそう感じざるを得ません。

氣になっていること　― 数字 ―

このような日本の中で、考えさせられる数字が新聞に出ていました。親御さんが一人の家庭の貧困率が 54%とありました。これは厚生労働省が 07 年に調査をした結果が発表されたもので、その次の 08 年にＯＥＣＤが調査した数字は 58%を超えています。国民の所得を順番に並べると、真ん中の人が 228 万円で、その半分の 114 万円に満たない人を貧困者と呼ぶのだそうですですが、この数字も本当かなと思います。

翻ってボーナスですが、予想金額が最低で 36 万円ということです。平均年収は 400 万とか 500 万とか言っていますが、数字のマジックが多すぎて、何を信用してよいのかというのが最近の大きな疑問の一つになっています。

政府が公表する数字、様々な経済団体が発表する数字、色々ありますので、自分で数字のマジックに陥らないような調べ方をしなければいけないと思っています。言葉だけのものはある程度見えますが、数字になっているとつい信用しがちなので、それは怖いと感じています。

氣になっていること　― 教育 ―

山田方谷の視点からみると、日本が再生するのは、どうしても教育だと思います。教育をきちんとしない限り、日本は再生しないと思います。そうなると鳩山さんが日教組の大会に出かけて行って、「日教組さんと手を組んで、日本の未来を築いていきたい」というような発言をしている事がどうも氣になってなりません。

色々な学校の校長さん方は、それこそ人事権も運営管理権もないような校長が結構多いようです。職員の多数決によって運営管理をされている学校が多いと聞きます。古い話になりますが、日本の選手がオリンピックで金メダルをとって表彰台にあがって国歌が流れた時、日本の高校生達だけが椅子に座ったままで立たなかった。先生達も立たなかったそうです。国旗に対する考え方や国歌に対する考え方が、日本の子供たちに教育をされていない。逆の教育をされているような氣がして仕方ありません。自分自身の国に対して誇りや愛着をもたずに、国の発展はありません。

氣になっていること　― 新型インフルエンザ ―

氣になっているものをもう一つ申します。何度も言っている新型インフルエンザです。豚新型インフルエンザです。ちなみに私の自宅は、家に入る前に手を洗ってうがいをして、上着も家の外にかけられるような設備を整えました。

見識とは行動です。何かあった時にどういう行動をとるかです。豚新型インフルエンザが流行している間に、生活習慣にしておくことが良いと思います。鳥の新型インフルエン

ザが始まったら、こんなものでは済みません。下手をすると、日本人は 2000 万人くらい死ぬのではないかと思っていますので、その為の生活習慣として、今年の内に手の洗い方・うがいの仕方・上着の管理の仕方等々を身につけておくように努力したいと思っています。

本日のテーマ知識・見識・胆識で新型インフルエンザを考えると、知識は、〈こうしたら良い。ああするべき〉という話です。見識は、〈それは良い。実行してみよう〉と思って、実行する覚悟を決めることです。胆識は実行することです。新型インフルエンザに対する生活習慣をまず家族から始めたら、多分それが隣近所や所属する組織に広がっていくようになると思います。又、広げていくべきだと考えて広げていく。それが胆識になります。

時事問題

国の未来について、民主党も自民党も、どなたもなかなか話をされない。近未来について発言をし、そちらに国民の関心を集めるような動きをした政党が多分生き残るのだろうと思いますが、今の政党は目先の話ばかりです。八ッ場ダムを中止と言ったために、地元では又、計画当初と同じように、他所から来て土地を買いあさり、国が保証金を出してくれるのを今や遅しと待ち構えているという動きが進んでいるようです。どこかこの国はおかしいですね。民主党はどうしても目の前・目の前のことが多いと感じます。

今年いっぱいはハネムーン期間ですから、年が明けてから行政刷新会議にしても一つ一つ論評が出来ると思います。でも、大分政治の雰囲氣が変わりましたから、その点は良かったと思っています。ただ、誰も言い出さないで不思議なのは、何故、入って来る収入の中で生活しようと思わないのかです。40 兆しかないのなら、40 兆で暮らそうと何故言わないのでしょうか。先ほども申しましたが、「入るを図りて出づるを制する」というのは基本的に正しいし、その方向で行くべきだと思います。

「知足応分」という言葉があります。入ってくる収入の中で暮らそうという考え方を一人一人が持てば、結果として日本が心豊かになる。それが近隣の諸国にも伝わっていって、世界に広がって、「足るを知る」という考え方が世界を救っていくのだろうと思います。各国の言葉で、多分似たようなものが沢山あるはずです。毎日、知足でいく人生。これが素晴らしいと思いますので、どうぞそのようにお過ごし戴ければ幸いです。

本日の講話は以上です。有難うございました。